

# 新聞をより身近なものとして感じ、興味を持たせるための環境作り

指定校 1 年次 上田市立南小学校 山崎 光雄

## 1 本校での新聞活用（NIE）の現状

今年度、本校は長野県NIE研究指定校1年目となり、NIE研究部会が新規に立ち上がった。「個性豊かに自分を表現できる子を育てるための指導はどうあったらよいか」の全校研究テーマをうけ、3部会ある研究部会の一つであるNIE研究部会は、1からの手探り的な研究を始めた。

NIE研究部会は、5, 6年学級担任、特別支援学級担任、専科担任で構成される研究部会で、今年度は、「同じくらいの年齢の児童が投稿した作文や、特集で紹介されている人物の記事を読むことを通して、自己を振り返り自分のこれからの生き方についての考えやめあてをもつことができる指導のあり方」を部会研究テーマとして、研究を進めることとした。

子どもたちの新聞に関わる実態は、家で購読していない児童が多く、習字で使うからと新聞を持ち物にしてもなかなか揃わなかったり、家で購読していても新聞を読んでいる児童はとても少なかったりといった実態である。

そこで、指定校1年目は、まず、子どもたちに「新聞をより身近なものとして感じ、新聞に興味を持たせたい」と願った。そのために、普段新聞接する機会が少ない子どもたちに、環境を工夫し、新聞社から提供していただける教材の効果的な活用方法を探っていくことで、子どもたちの新聞への興味が増し、新聞を活用する機会が増えていくのではと考えた。

## 2 実践のねらい（育てたい力）

高めたい児童の力

- ① 新聞の記事を読むことを通して、自己を振り返り、自分のこれからの生き方について考えることができる力
- ② ①により、持つことができた自分の考えを、自ら文章に表現できる力

上記のねらいを達成するために、本年度は新聞をより身近なものとして感じ、新聞に興味を持つことができる環境づくりに重点を置きながら、研究を進めることとした。

## 3 今年度のNIE実践の概要

(1) 新聞を身近に感じるための環境づくりについて

- ① 6社の新聞提供(10月～2月)による自由な閲覧スペース
  - ・児童昇降口の「南っ子広場」のテーブル上に、毎朝新聞6社分を置き、1年生から6年生までの全ての児童が毎日自由に閲覧できるようにした。また、過去の各社新聞を長テーブルに並べ、「今日の一面記事はなんだろう。新聞社によってちがうね」と掲示し、まずは一面記事に興味を持つような工夫も行っている。

## ②信濃データベースの利用

- ・信濃毎日新聞社の信濃データベースに契約をして、校内の全てのパソコンで過去の新聞記事を検索できるようにした。また、過去3年間の南小学校に関連した記事をデータベースから検索し、大きく印刷して、蛍光ペンでわかりやすく囲って掲示した。



「今日の一面記事は何だろう？」コーナー

## (2) 教材の利用について

### ①信濃毎日新聞、N I E 推進協議会の方による出前教室(4 学年)

- ・本校は、毎年4年生の時に信濃毎日新聞社の出張授業を受け、新聞の作り方について学習を行っている。また、行事のまとめとして、「〇〇見学新聞」「〇〇まとめ新聞」などと、学習のまとめを新聞形式にして掲示している。



出前授業の様子(4 学年)

### ②信濃毎日新聞学習シートの利用

- ・土日を中心に、家庭学習として学習シートをダウンロードして利用している。5, 6年生では主に小学校高学年～中学校向けのものや、小学校中学年のものをできるだけカラー印刷して配布している。

### ③スクラップブックの利用

- ・5, 6年生全児童に配布。



子ども新聞コンクール(5年生)



遠足新聞(2年生)

### ④「斜面」の書き取り

- ・家庭学習や朝のドリル学習で利用。

### ⑤長野県子ども新聞コンクールへの応募(4, 5, 6年の希望者が参加)

### (3) 情報教育（特別活動）での新聞利用

- ・パソコンを使った情報教育に信毎データベースによる過去の新聞記事の検索を取り入れた。過去の新聞を検索する第一歩として「自分の生まれた日」にどんな出来事があったのかを新聞から知ろう、と呼びかけてみた。児童は、さっそく自分の誕生日を検索のキーワードにし、調べ始めた。途中、誕生日に起こった出来事は、その日ではなく次の日の新聞に出ている、ということにある子が気づき、それを全体に広めることで、自分の誕生日の出来事を知るためにはその次の日を検索しないといけないということがわかり始めた子どもたちであった。その記事の中から特に気に入った記事を印刷し、スクラップブックに保存していった。6年生の中には、ソルトレークシティー冬季オリンピックの女子モーグル決勝の日が誕生日だった児童がいて、(6) 道徳での新聞利用の活動につながる学習になった。

### (4) 国語科での新聞利用

- ・6学年国語「意見文を書こう」の単元において、各自決めだしたテーマに沿って記事検索を行った。一般的なインターネット検索ではなく、信毎データベースの新聞記事からの検索に限定し、資料集めをした。インターネット検索では、場合によっては正しくない情報、過剰に表現された情報、個人の意見としての情報など、客観性に欠ける情報が検索されてしまう可能性がある。あえて、「新聞記事からの情報」に絞り、意見文の資料として利用した。

### (5) 社会科での新聞利用

- ・自動車工業の単元において、自動車生産には多くの関連工場が関わっていることを学習する場面で新聞を取り入れた。東日本大震災の際に自動車生産がストップしてしまったという内容の記事で、「なぜ被害のなかった地域でも生産ができなくなってしまったのか」と問いかけ、新聞の記事から理由を読み取った。普段は新聞を読まない子が多いクラスであるが、3つの記事を資料として用意し、どの記事についてもじっくり読み込んでいる姿があった。要点を読み取り、大事な所に線を引く子や習っていない漢字を調べる子など、国語としての力も自然と身につけていくように感じた。全体追究の場面では、新聞の記事から関連工場が被災し、部品が入らなくなって生産がストップしたことを学習し、実際の事象から新聞を使って学びを深めていた。

### (6) 道徳での新聞利用

- ・上村愛子選手が参加した1998年長野冬季オリンピック(7位)、2002年ソルトレークシティー冬季オリンピック(6位)、2006年トリノ冬季オリンピック(5位)、2010年バンクーバー冬季オリンピック(4位)のモーグル女子決勝の記事を使って、上村選手が最後まであきらめずに競技を続ける選手のすばらしさを感じ、強い志を持って、高い目標を持って努力することの大切さ感じ取ることで道徳的価値を考えさせた。ちょうど、この授業の後にソチオリンピックが開幕し、上村選手が5回目のオリンピック出場を果たしたことで、子どもたちはオリンピックに興味を持ち、新聞やテレビから得た情報を休み時間等に共有しあっている姿が見られた。

(7) 総合的な学習の時間における新聞利用（公開授業）

① 6年総合的な学習の時間 単元名「読む人の心に届くような意見文を書こう」

② 単元の目標

- ・ 小学校生活を振り返り、自分が頑張ってきたことや成長したことを構成や表現を工夫した意見文に表すことを通して、自分の考えが相手の心に届いた時の気持ちよさに気づくことができる。

③ 展開の概要（抜粋）

段階	学習活動	予想される児童の姿	教師の支援	時間
1次 国語	・国語の「今、わたしは、ぼくは」を読んで、意見文を書く見通しを持つ。	・この前の児童会祭はみんながよく頑張ったな。 ・家族や友だちに向けて書こう。	・楽しかったことやいい思い出だけでなく、頑張ったことやつらかった経験からも成長してきたことを感じさせる。	1
2次 国語 総合	・同じ年代の友だちが、どんな意見文を書いているか、見本を提示する。 ・多くの投書が「意見→理由・体験→感想・意見」の構成になっていることを確認する。 ・投書の文章が、なぜ読む人に伝わりやすいのかを考える。	・この投書の体験はよくわかる。 ・同じ年代の子なのに、よく自分をふり返っているな。 ・以前習ったように、始めに意見が書かれ、その後に理由や体験が書かれている。 ・「意見→理由・体験→感想・意見」の形になっているのだ。	・新聞の中から同年代の子の投書を提示する。  ・投書文から、読む人に伝わるための文章の書き方「読む人に届くこつ」を学び、今後の学習の足がかりとする。	2
3次 総合	・意見文の構成を考える ・テーマを決める ・書きたいことを、①テーマ②理由・体験③感想の3つに書き表す	・運動会の組体操がつかかったけど最高の思い出だ。 ・体験や理由は3つくらい書けると読む人も分かりやすいのだな。	・自分が小学校生活で一番成長したことは何か考えさせる。 ・構想カードを配り、①②③の3つを記入させる。	2
	・意見文を投書用紙(400字程度)に書く	・書き始めを工夫しよう。 ・構想カードを参考にするとわかりやすいな。	・構想カードを参考にし、「意見→理由・体験→感想」の形になるように指示する。	1
4次 総合	・できた意見文を読み合い、分かりやすく書けているか確認し合う			1 本時
5次 総合	・意見文を推敲・清書し、友だちに発表する。	・もっと詳しく体験を書くぞ。 ・この体験の部分に、この時の気持ちを入れよう。	・この前アドバイスもらって見直した方がよいところは書き直させる	1
6次 総合	・意見文に見出しを決めて新聞に投書する	・頑張って書いたから、投書してみよう。 ・ぼくの文章が新聞にのるのかな。	・頑張って書いた意見文を、友だちだけでなく、たくさんの人に読んでもらうよう投書してみようことを提案する。	1

④ 本時案

主眼

構想カードをもとに意見文を書いた子どもたちが、友だちと意見文を読み合う場面で、文章の構成を確認したり、「読む人に届く文章のこつ」に照らし合わせて読み合ったりすることを通して、読む人の心に届く文章になるようにアドバイスし合うことができる。

本時の位置

前時・・・構想カードをもとに意見文を書いた。



まとめ	4 本時の感想を記入し、次時への見通しを持つ	<p>れていてよかった。ぼくもこんな文章を書きたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「こつ」に照らし合わせて、赤い付箋、青い付箋を使い、友だちにアドバイスをすることができたか。</p> </div> <p>・みんなに褒めてもらってよかった。 ・今日アドバイスもらった部分を参考に少し手直ししたいな。 ・もう少し、体験をくわしく書こう。</p>	7	<p>① 3人グループを組む。 ② 「読む人に届く文章のこつ」を参考に、お互いの意見文を読み合う。 ③ 「こつ」に照らし合わせて、よかった点を赤い付箋、改善点を青い付箋に書き、アドバイスし合う。</p> <p>○ 今日アドバイスをし合って、思ったり、考えたりしたことを感想用紙に記入させる。 ○ アドバイスもらったことをもとに、次時に推敲することを伝える。</p>
-----	------------------------	---	---	--

#### 4 研究のまとめと残された課題

##### (1) 環境作りと教材の利用について

今年度は、「新聞をより身近なものとして感じ、新聞に興味を持たせたい」という願いで、環境を整えたり、身近な教材や新聞記事を利用し、できることから手探りの状態で始めたりした。

9月から1月までの6社購読の新聞では、興味を持った児童がコーナーで新聞を読んだり、朝の会での記事紹介に利用をしたり、小学生新聞を図書館に置いて自由に閲覧できたりするように工夫した。まだまだすべての児童が、というわけにはいかなかったが、9月と1月の様子を比べると新聞に興味を持った児童が増えていることは明らかである。今後、より効果的にするためには、新聞を置く場所の工夫と、学級で紹介するために、日ごろから教師側が新聞を読み、使いたい記事、今後使うであろう記事をストックしていく必要があると思った。

信濃毎日新聞学習シートの利用では、国語の読解や言語活動、算数での統計的学習、理科での科学的事象や社会での歴史的事象の学習など、教科学習としての身近な教材として利用していくことができた。また、信毎データベースの利用も、様々な教科、道徳、特別活動において効果的な学習ができたと思われる。来年度も継続して（来年度8月までは今年度分が自動継続）全校児童が利用できる環境作りを考えていきたい。

##### (2) データベースの利用について

信濃毎日新聞データベース（以下DB）の利用で、教材としての新聞の活用機会がかなり増えた。

毎日届けられる新聞から、子どもたちの実態に合い、本時の授業でねらう単元目標や本時の目標に即した記事を、教師がタイミングよく見つけ出すことはとても難しい。上記の特別活動の実践から総合的な学習の時間の実践まで全ての活動がDBなしではとても難しい活動であった。今後も年間を通してDBの契約を是非継続していきたい。

(本来ならば、日ごろから教師側が新聞を読み、使いたい記事、今後使うであろう記事をストックしていく必要があると思うが、やはり難しい面がある。)

### (3) 総合的な学習の時間の公開授業について

#### ①本時までの単元展開において

・構想カードの利用が予想以上に効果的であった。表現することに自信のない子どもたちが、新聞社の方に用意していただいた構想カードを使って、「意見」「理由・体験」「感想・意見」と、段階をおって下書きを書いていき、それを利用したら、原稿用紙へは1時間で書き上げてしまった。しかも、どれもすばらしい意見文に仕上がっていた。新聞社提供の構想カードは今後も活用していきたい。

#### ②実証の観点「友だちと意見文を読み合う場面で、文章の構成が、「意見→理由・体験→感想・意見」になっているかを、色の異なる蛍光ペンを用いてお互いに確認させたことは、意見が伝わりやすい文章になっていることを見直すためのアドバイスにつながったか。」について

・段落が分かれていて、読みやすい文章になっていた。はっきりわかる色でぱっと見てわかるのでよかった。子どもたちは、自分の文章を友だちに読んでもらったことが自信につながったようだ。ある児童は、自分がつけた色と、班の児童がつけた色が違っていたので、ややショックを受けた様子であったが、合っていた児童はうれしそうであった。ペンが止まって悩んでいた児童がいたが、とっさに教師の機転の利いたアドバイスがよかった。アドバイスがその子の良さを引き出していた。

#### ③実証の観点「読む人に届く文章のこつ」3観点をもとに、友だちの意見文を赤と青の付箋を使ってアドバイスし合ったことは、心に届くような文章にするためのアドバイスとして有効であったか について

・文章を読んで「〇〇君の成長がよくわかった」とコメント。読んでもらった方はこんな風にかかれてうれしかったようだ。思いを寄せていた友だち。その友だちを信頼しているから付箋に素直な感想を書けたのではないか。すばらしい1時間であった。ある児童は「〇〇さんらしい」と付箋に書いてあった。お互いのことをわかっているから「その子らしい」と書けたのではないか。青い付箋をもらってやや落ち込んでいる児童に対して、教師の「青い付箋、ラッキーだよ」というアドバイスがよかった。

### (4) 来年度の研究の方向性

・来年度は、研究指定校2年次である。今年度の5,6年生中心の研究から、1~6年生の全学年がかかわる「縦割り」の研究体制とし、全校児童が今年度以上に新聞とかかわることができる研究を進めていきたい。また、今年度の様子から、新聞の閲覧スペースの改良、工夫をしたり、図書館や各学年の共有スペースなどを積極的に利用したりしていきたい。

上田市南小学校(中々)の6年3組(34人)は、総合的な学習と国語の時間を使って「読む人の心に届くような意見文」を書くことに取り組んだ。積極的に自分の考えを表現したり互いの意見を聞いたりする楽しさを実感する目的だ。1月17日はそれぞれが書いた意見文を見せ合い、感想を伝え合った。

## 上田市南小6年 総合的な学習と国語

担任の渡部顕治教諭(31)は、児童たちが授業中の発言や話し合いで自分の考えをうまく表現し切れていないと感じていた。「小学校生活で成長したことを文章にし、自信を持って中学校に進んでほしい」と、2学期から意見文の授業をした。

最初に意見を示し、次にそう考える理由と実際の体験、最後に体験を通しての感想や意見を書く。児童たちは初めに、意見文が「3段構成」になっていると学んだ。1月初旬には信濃毎日新聞の投稿欄「建設標」に掲載されている若者の意見「10代から」を手本に、3段構成を確認。「自分らしい体験談が書かれていると読みやすい」「意見や決意が分かりやすい」といった特徴も理解した。「一番成長したこと」「どんな出来事で成長できたのか」「経験を踏まえての感想や決意」をまとめた「構想カード」も作成し、意見文を書いた。

この日は3、4人ずつの班に分かれ、各自が書いた400字ほどの意見文をコピーして渡し、意見を交わした。まず、3段構成が伝わったのかを確認するため、ほかの人の文章を読んで、書かれている意見や感想に赤線を、体験に黄

# 伝わる文章 投稿欄に学ぶ

あした  
はぐくむ



付箋に友人の意見文の良かった点などを書く  
上田市南小6年3組の児童たち

## 構成を意識 体験交え書く

色の線を引いた。次に、その文章について「良かったところ」「もっとこうすれば良くなる」ところをそれぞれピンクと水色の付箋に書き、筆者に渡した。小林れみさん(12)は、目標を立てて野球の練習に取り組んだ清水統偉君(12)に「努力が伝わり、その時の気持ちを書かれている」とピンクの付箋を手渡した。佐藤綾香さん(12)は東井涼葉さん(12)の「積極的になれた」という文章を読み、水色の付箋に「もう少し体験と意見が合っているといいと思う」と書いた。

最後にこの日の授業の感想を発表。石川颯(12)は「伝えたい

信毎NIEアドバイザーから

## ここがポイント

### 同年齢の児童の投稿 分析

渡部顕治教諭は、6年生に「自分らしい表現で意見文を書き、読み手に自分の考えを伝える楽しさや達成感を味わわせる」目的で、新聞を使いました。文章を書く力を高めるための新聞の使い方が参考になります。

一つ目は、国語の時間に意見文

の基本事項を丁寧に学ばせた後、総合的な学習の時間で「自分らしい表現」と「相手に伝わる工夫」をさせたことです。総合の時間では、新聞に投稿することを狙いにさせました。児童は「自分の投稿が新聞に載るように」との高揚感に支えられながら、主体的に文章

を書いていました。

二つ目は、自分の考えが伝わる文章を書くために、文章のモデルを新聞の投稿に求めたことです。前年の同じ時期に載った同年齢の児童が書いた投稿を基に「伝わりやすい文章の構成」「読む人が理解しやすい文章を書くコツ」などを分析させました。それによって児童は、自分の書きたいことを絞りこみ、体験を根拠にして書き上げ

ることができました。

三つ目は、グループで検討し合う際に、見てすぐ分かる活動をさせたことです。蛍光ペンで線を引いて構成を確認。ピンクと水色の付箋を使って、文章を磨く手掛かりを交換し合いました。3、4人のグループでの意見交換が、互いを高めていました。

(信濃毎日新聞社NIEアドバイザー 江沢啓二)